

ビワ生育情報

第 4 報
千葉県農林水産部
令和8年1月号

「楠」、「大房」、「田中」とともに12月1日時点では開花が平年より遅っていましたが、12月の気温が平年より高く推移したため開花が進み、「田中」の開花終期は平年よりやや早く、開花期間が短かったです。

花房の発育

ビワの開花期を表1に示した。暖地園芸研究所の開花始期は、「楠」が11月16日で、平年より8日、前年より4日遅かった。「大房」が12月5日で、平年より11日遅く、前年より9日遅かった。「田中」が11月17日で、平年より6日遅く、前年より3日遅かった。開花盛期は、「楠」が12月5日で、平年より10日遅く、前年より4日遅かった。「大房」が12月20日で、平年より3日遅く、前年より5日早かった。「田中」が12月13日で、平年より12日遅く、前年と同日であった。開花終期は、「楠」が12月29日で、平年より6日遅く、前年より1日遅かった。「田中」は1月3日で平年より4日早く、前年より13日早かった。「大房」は1月5日時点で開花終期に至っていない。

12月1日時点では花房の発育及び開花が3品種とも遅れていたが、12月は気温が平年より高く推移したことから、開花が進んだ。今後の気象にも影響を受けるが、現時点では「大房」の開花の進みは平年並みと思われる。

表1 ビワの開花期(暖地園芸研究所)

品種	開花始期(月・日)			開花盛期(月・日)			開花終期(月・日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11. 16	11. 8	11. 12	12. 5	11. 25	12. 1	12. 29	12. 23	12. 28
大房	12. 5	11. 24	11. 26	12. 20	12. 17	12. 25	—	1. 27	1. 28
田中	11. 17	11. 11	11. 14	12. 13	12. 1	12. 13	1. 3	1. 7	1. 16

平年：平成7年～令和6年の30年間の平均

開花始期：花房の10%が開花、開花盛期：花房の50%が開花、開花終期：花房の90%が開花

令和7年12月の気象

令和7年12月の半旬別の気象を表2に示した。平均気温は第1、第4、第5、第6半旬は平年より高く、第3半旬は平年並み、第2半旬は平年よりも低かった。月平均気温は10.2°Cで、平年より1.2°C高く、前年より0.6°C高かった。

氷点下日数は1日であった。最低極温は第3～第5半旬は平年より高く、第1、第2、第6半旬は平年よりも低かった。

降水量は第3、第5半旬は平年より多く、第4半旬は平年並み、第1、第2、第6半旬は平年より少なかった。月合計は93.5mmで平年の105%であった。

日照時間は第1、第2半旬は平年より多く、第3、第4、第6半旬は平年並み、第5半旬は平年より少なかった。月合計は168時間で平年の102%、前年の75%であった。

表2 令和7年12月の気象(アメダス館山市)

半旬	平均気温(°C)			氷点下日数(日)			最低極温(°C)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	12. 3	10. 8	13. 0	0	0. 1	0	1. 6	3. 6	4. 7
2	9. 5	10. 0	10. 8	0	0. 2	0	0. 4	2. 2	2. 6
3	9. 3	9. 2	8. 2	0	0. 5	1	3. 4	1. 9	-0. 6
4	9. 7	8. 6	8. 2	0	0. 8	2	2. 0	0. 7	-2. 2
5	11. 8	8. 0	8. 3	0	0. 8	2	3. 9	0. 7	-0. 7
6	8. 4	7. 5	9. 4	1	1. 7	1	-1. 0	-0. 7	-1. 6
平均/計/最小値	10. 2	9. 0	9. 6	1	4. 1	6	-1. 0	-0. 7	-2. 2

半旬	降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	0.5	20	0.0	34	25	43
2	0.0	17	0.0	37	25	40
3	40.5	13	1.5	25	26	32
4	10.5	12	0.0	27	27	34
5	40.0	13	3.0	11	28	37
6	2.0	15	0.0	34	35	38
計	93.5	89	4.5	168	165	223

平年：平成3年～令和2年の30年間の平均

最低極温：各半旬あるいは12月中に記録した最低気温

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

2月の作業

1月中旬～2月上旬は1年間で最も寒い時期である。本年の開花は12月1日時点では平年よりも遅れていたが、12月の気温が平年より高く咲き進んだ。そのため、寒害を受けやすい圃場や品種等では寒波に十分注意し、必要に応じて被覆資材で樹体を覆ったり、園内をヒーターにより加温する等の対策を行う。

苗木の植え付け

ビワの苗木の植え付けは、発芽直前で根の活動が緩慢な2月中下旬が適期である。苗木は根鉢を崩さないように、土を付けたまま移植すると植え傷みが少ない。

植穴は直径1～1.5m、深さ40～50cmの穴を掘り、穴の底に完熟堆肥を入れる。土の埋め戻しは土が落ち着くときの沈下を見込んで地表面から30～50cm高くなるよう盛り土をする。定植後は苗木に支柱を添え、十分にかん水した後、盛り土が乾かないように敷きわらをしておく。

がんしゅ病の予防散布

がんしゅ病は一度発生すると防除が難しいため、感染防止を目的として、春枝の新葉展開期の3月上中旬に銅剤の散布を行う。薬剤散布は幹、枝及び葉に薬液が十分付着するように行う。薬剤散布に当たっては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従う。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>